

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第306号 平成10年6月



小机敏昭

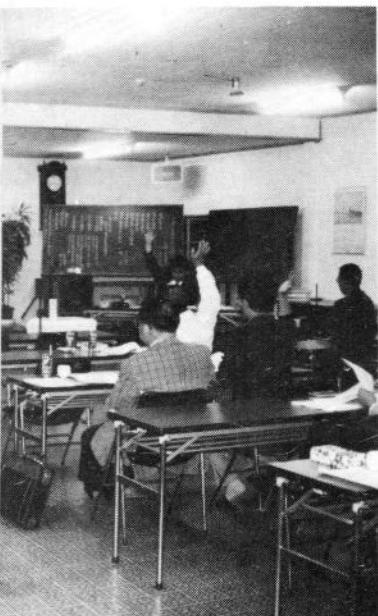
目 次

	頁
1. 平成10年度第1回定期総会開催	
広報部 … 2	
2. 理事会報告	広報部 … 4
3. 会員通知・医師会の動き	事務局 … 8
4. 各部だより	
学術インフォメーション	学術部 … 10
5. 医療講演会	
「かかりつけ医機能推進事業について」	
広報部 … 11	
6. 新・旧理事監事懇親会	広報部 … 12
7. 難病在宅訪問診療事例検討会	
「エルサルバドル保健視察団を迎えて」	
西村邦康 … 13	
8. 来る人・来ない人	石井好明 … 15
9. 地区だより	
青梅地区	片平潤一 … 17
10. 伝言版	広報部 … 18
11. お知らせ	事務局 … 18
12. 表紙のことば	小机敏昭 … 19
13. あとがき	神尾重則 … 19

平成10年度 第1回定期総会開催

平成10年度第1回定期総会は、平成10年5月29日(金)午後7時30分より西多摩医師会館会議室において、玉木総務部長の司会により下記次第で開催された。

1. 開会宣言 総会議事規則第3条により宮川会長が宣言す。
1. 議長指名 同3条第2項により会長が川崎健一郎会員を選任し指名す。
1. 議長登壇
1. 副議長指名 議長が石井好明会員を指名す。
1. 資格審査 川崎議長が会員総数392名の内、出席29名、委任状257名、計286名で会員総数の過半数(197名以上)で成立した旨報告す。
1. 物故会員に対する黙禱 平成10年4月12日鈴木幸雄先生に対して黙禱を行った。
1. 開会挨拶 宮川会長
1. 議事録署名人指名 議長が、細谷純一郎会員、森本晉会員を指名す。
1. 議題
1. 報告事項
 - 平成9年度各部事業報告を各担当部長が行った。
—承認—
1. 審議事項
 - 第1号議案 平成9年度収支計算につき承認を求める件
 - 第2号議案 平成9年度預り金につき承認を求める件
 - 第3号議案 平成9年度西多摩医師会互助会収支計算につき承認を求める件
 - 第4号議案 西多摩医師会互助会役員につき承認を求める件
 - 第1号～第3号議案につき小机経理部長より説明がなされ松原貞一監事より監査報告が行われた。
 - 4議案とも賛成多数で原案通り承認された。
1. 閉会宣言 総会議事規則第3条により宮川会長が閉会を宣言す。
1. 閉会挨拶 真鍋副会長が行った。
1. 議長団降壇



理事会報告

★ Information

5月定例理事会

平成10年5月8日

西多摩医師会館

【1】 報告事項

(I) 都医地域福祉担当理事連絡会

(石田理事)

各地区にて介護保険の勉強会を行ってほしい。

(II) 西多摩地域保健衛生協議会報告

(大堀副会長)

平成10年4月28日、西多摩医師会館にて開催。予防接種につき協議し合意。

介護保険モデル事業につき瑞穂町福祉担当者より報告があった。

(III) 各部報告

(担当部長)

病院・救急委員会

委員会の目的 病診連携、病病連携の強化により地域で完結する医療づくりすなわち地域包括医療の完成を目指す

委員会機能の範囲 各施設の制約（設立母体、財政状況経営規模、専門分野・当直体制など診療体制）外で相互協力出来ること

病診間の問題

1. 救急医療

不確定な移送の解消

収容能力の限界をどう解決するか

2. 高度・専門医療

紹介受診の簡便と迅速化

依頼、報告など情報交換の向上

3. 病診連携・機能分担

利用者側の理解のための啓蒙活動

“病院に紹介したら戻らない”を解消

4. 研修啓蒙

CC, CPC, 講演会は相互理解の場

会合時間の問題

病院間の問題

1. 救急受入れの連携（ネットワーク）

2. 専門分野での協力

3. 施設の相互提供

4. 長期入院抑制策と病院の利害関係

5. 研修、勤務、出向の相互開放

大学関連、自治体の理解協力要す

医師会病院部会

1. 理念は何か

地域貢献と病院存続の両立をいかに実行するか

2. 救急体制の目標、理想と現実

病院個々で体制、機能が異なる

総合的に機能させる方法

- 3. 医師会枠内で出来ないことは何か
 - 医師会定款枠内での問題
 - 公立病院のB会員の取り扱い
- 4. 医師会外部組織（西多摩地区病院会）との関連
 - 目的別二本立てか一本化か

生存に関わる病院経営の行方

医療費増大の歯止め 個人負担増（薬代、難病医療費）

入院費引下げ（長期入院抑制）

定額払い化

薬価基準廃止の方向

個人医療費負担増加→利用者の選択が優先

公立病院の補助限定→赤字増加は評価が低下し補助削減

サービス、アメニティーの要求→採算のとれる経営努力

皆保険制度の取崩し→米国のD R G (diagnostic related group) または managed care に基づく保険商品導入 (HMO = health management organization)

→質とサービスが要求される

→競争力の強い外資病院進入の可能性

(IV) 各地区会よりの報告

(各地区長)

(青 梅) 4月22日 役員会開催。

(福 生) 4月27日 幹事会開催。

(羽 村) 5月12日 地区連絡会予定。

(あきる野) 特になし。

(瑞 穂) "

(日の出) "

(V) その他

保健所から健康診断希望者を民間医療機関へ紹介する件について

アンケート実施について

【2】 報告承認事項

(I) 入会会員について

— 承認 — (玉木理事)

【3】 協議事項

(I) 平成9年度収支計算報告書の承認について

— 承認 — (玉木理事)

(II) 平成10年度第一回定期総会議題の確認について

— 承認 —

5月定例理事会**平成10年5月19日****西多摩医師会館****【1】 報告事項****(I) 都医地区医師会長協議会報告**

(宮川会長)

1. 都医からの伝達**(1) 第2回日医総研セミナーの開催について**

5月25日までに出席を報告するように。

(2) 産業医研修会開催予定について

西多摩医師会主催は7月25日(土)。

(3) 東京都医師会共済部会平成10年度新規部会員加入促進の実施について

未加入者は是非加入してもらいたい。

(4) 厚生省「がん検診の有効性評価に関する研究班」報告書について

がん検診は有効であるとの結論が出た。

(5) 東京都保健所における健康診断の見直しの取り組み状況について

-医療機関移行に係るアンケート調査-

多摩地区はアンケート実施中である。

(6) 東京都保健医療計画推進協議会報告について

検討スケジュールを参考にするように。

(7) 老人保健施設設置状況について

49ヶ所。

(8) 東京都医師会「かかりつけ医意見書」について

7月頃までに作成する。診断マニュアルが必要である。

(9) 全国介護保険担当者会議資料について

資料を参考に。

(10) 東京都高齢者介護サービス体制整備検討委員会報告書について

報告書を参考に。

(11) 在宅介護支援センター設置状況について

153ヶ所。

- (12) ケアマネージャー養成講座参加者状況について
未だ参加者は登録可能。
- (13) 介護保険資料コーナーの設置について
東京都医師会の中に設置するので利用されたし。
- (14) 東京都の救急医療体制の見直しについて
二次救急医療施設の充実、補助が必要。
- (15) 第25回日本医学会総会登録推進について
西多摩では53名の登録を目標に。

2. 協議事項

なし

3. 地区医師会からの報告

- (1) 平成10年度看護学校関係予算の情報収集について (新宿区医師会)

4. その他

(II) 各部報告 (各担当部長)

- (学 術) 5月11日 委員会開催。
運営方針につき確認した。要望があれば提案願いたい。
- (病院救急) 5月15日 委員会開催。
委員長・副委員長・書記の指名。委員会の目的と機能について討議した。
医師会病院部会設置に関しては更に議論を深め検討して行く。

(III) 各地区会よりの報告 (各地区長)

- (青 梅) 特になし。
- (福 生) 6月5日 総会予定。かかりつけ医について話し合い。
- (羽 村) 5月12日 地区会。介護保険の勉強会を行った。
- (あきる野) 5月18日 例会。介護保険につき市担当者と情報交換。
- (瑞 穂) 特になし。
- (日の出) 5月14日 例会。年末休日診療など今後の日程につき決定。

(IV) その他

多摩川保健所主催による結核予防の研修会

7月7日(火) 開催予定。

【2】 報告承認事項

(I) 入会会員について

— 承認 — (玉木理事)

【3】 協議事項

(I) 医療関係記事出稿依頼について

- ① 西多摩新聞社
 - ② 秋流新聞・西の風
- 広報委員会にて検討する。

(II) 西多摩地区救急業務連絡協議会10周年記念行事について

西多摩医師会後援とする。（病院救急）

(III) 平成10年度多摩医学会役員推薦について

宮 川 栄 次 先生	坂 本 保 巳 先生
塩 沢 三 朗 先生	大河原 周 先生
馬 場 真 澄 先生	紫 崎 昌 浩 先生

(IV) 平成10年度第1回定時総会次第について

会員通知

- 西多摩医師会主催産業医研修会開催について
- 親医療証をお持ちの方の難病医療費の患者一部負担金の取扱いについて
- 東京都難病医療費公費負担制度の改正について
- 平成10年度診療報酬改正に関する疑義事項について
- 老人慢性疾患外来総合診療料の取扱いについて及び老人デイ・ケアの施設基準の届出に係る取扱いについて
- 生活保護法医療券・診療報酬明細書の薬剤一部負担金欄記入方法の一部変更について
- 女子医大医師会「産業医研修会」のお知らせ
- 日本医科大学医師会「産業医研修会」のお知らせ
- 10年度都医会産業医基礎・生涯研修会の開催について
- 10年度都医会産業医前期研修会の開催について
- 10年度第1期会費の納入について
- 会報
- 診療報酬請求書等の記載要領の一部改正及び明細書等の様式について
- 葛飾区医師会産業医研修会の開催について
- 日本橋医師会産業医研修会のお知らせ
- 東京都医師会介護支援専門員（ケアマネージャー）養成講座開催について
- 学術講演会（5／25）
- 〃（5／26）
- 保健所から健康診断書希望者を地域の医療機関に紹介することについて（アンケート協力のお願い）
- 羽村市学術講演会（6／9）

各部だより
**学術部
Information**


西多摩医師会学術講演会のご案内

謹啓

新緑の候、先生方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、この度下記の通り西多摩医師会学術講演会を開催する運びとなりました。
ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席賜りますよう
ご案内申し上げます。

謹白

記

日 時：平成10年6月16日(火) 19:30～

場 所：西多摩医師会館

青梅市西分町3-103 TEL 0428(23)2171

講 演：「NSAIDの安全性（レリフェン）」

(株)三和化学研究所 学術担当

**特別講演：『慢性関節リウマチ・変形性関節症
—最近の薬物療法—』**

青梅市立総合病院 副院長 桜井徹志先生

ご出席された先生には、日本医師会生涯教育講座参加証明書が交付されます。
また、当日は軽食を用意しております。

共催：西多摩医師会

(株)三和化学研究所

医療講演会

「かかりつけ医 機能推進事業について」

東京都医師会理事 野 中 博 先生

5月8日(金) 定例理事会開催に先立ち、東京都医師会野中 博理事をお招きし「かかりつけ医機能推進事業」について概説していただきました。



* カカリつけ医に関する事業

1. カカリつけ医モデル事業（国事業）

平成5年度全国で14カ所を選定して「かかりつけ医モデル事業」を実施。

本事業は、地域住民のニーズに応え、そして国民に真に信頼される医師像を求めて、日本医師会が厚生省に強く要望して実現させた事業である。

2. 在宅ケア推進モデル事業（都事業）

平成6年3月東京都在宅保健対策検討委員会から「東京都における訪問看護や訪問診療のあり方」について最終報告を受け、この報告をうけて平成6年度から2年間「在宅ケア推進事業」を実施する事とした。（渋谷区、三鷹市）

目的：病状が安定し、在宅での療養が可能な者及び入院・入所待機患者に対して、在宅ケア体制の充実を図り、安定した療養環境を確保する。

3. カカリつけ医機能推進事業（都事業）

平成6年度から開始された「在宅ケア推進モデル事業」を平成7年度より在宅の要介護高齢者に限らず、地域住民を対象とする「かかりつけ医機能推進事業」として実施することとした。

目的：都民一人ひとりのライフステージに応じた各種保健医療サービスを身近なところで提供する「かかりつけ医」の機能を推進することにより、在宅ケアを基本としながら、保健医療サービスとを一体的かつ計画的に提供する地域ケア体制の整備を図るとともに、施設間相互の機能分担と機能連携を促進する。

* カカリつけ医の求められる機能

- | | | |
|------------|---------------------|-----------|
| 1. 近い | 2. どんな病気でも診る | 3. いつでも診る |
| 4. 病状を説明する | 5. 必要な時ふさわしい医師を紹介する | |

高齢者の健康に、規則正しい生活習慣とかかりつけ医が寄与していることは、国保中央会が厚生省の委託で行った調査研究会の結果でも示唆されております。

在宅医療を実践する上で、医師会がはたすべき支柱としての役割およびかかりつけ医を住民に理解してもらうことの必要性が強調されました。 (広報部)

「新・旧理事監事懇親会」の報告

5月13日(水) 午後7時30分より、羽村の「かつら」にて、恒例の新・旧理事監事懇親会が開催されました。

宮川会長以下、旧役員として道又前監事、高水、樋口、奥野前理事、新任役員として足立監事、横田、天野、丸野、星野新理事はじめ20名が参加しました。

退任役員の各先生からは、活動を通じて得たもの、苦労などが語られ、退任後も西多摩医師会の活動に協力して行くことが表明され、新任の各先生からは、今後の決意や抱負が述べられました。

懇親会では、和気藹々とした雰囲気の一方で、医師会の活性化に向けての議論を掘りさげる場面も見られ、大いに交流が深められました。

(広報部)



エルサルバドル保健視察団を迎えて — 難病在宅訪問診療事例検討会 —

西 村 邦 康

日本の地域保健（公衆衛生）の研鑽視察に JICA を通し来日したエルサルバドルの研修生（ソニア看護大学教授、エリザベス看護学校長）が多摩川保健所に研修に見えた。そのスケジュールの中に難病患者在宅訪問診療看護のケース検討が組み入れられて西多摩地区特殊疾病対策の一端をみてもらった。

検討事例は、数年来寝たきり状態で妻の介護と保健所、自治体、社協等の社会資源サービスによって自宅での療養生活を送っている脊髄小脳変性症患者で、昨年妻が急性心筋梗塞で入院、退院後間もなく脳梗塞で再入院、その間本人は入院療養を余儀無くされた。妻が退院後患者の自宅療養を強く希望した。その自宅療養の継続を適えるため関係者が退院後介護人の負担軽減を協議し現時点で考えられる保健福祉サービスを活用して平成2年からの自宅療養を継続しているケースである。当日研修生は保健所保健婦と一緒に患者宅を訪問し、寝たきり、酸素吸入、気管カニューレ、胃瘻、尿道カテーテル挿入、発語障害で意思疎通も困難な患者の診療所看護婦、市役所ヘルパーによる管交換、褥瘡処置、等看護の実地また介護者への対応等をベッドサイドで見学してもらい、その後福生市福祉センターで開催された定例の難病患者事例検討会に出席してもらった。

検討会は小宮山、岡崎保健婦の司会で行われ、要介護者、介護者、の一ヶ月間の身体、及び日常生活の経過報告が関係者から行われ、具体的問題として四肢浮腫と体位、褥瘡とエアマット圧、便通と摘便浣腸回数等々が討論された。お二人は熱心に聞いておられ、そして検討会はどの位の回数開催されているか、会のリーダーは、介護者のメンタルケアはどうしているかなど、このケースでの課題のポイントを突いた質問が出され我々も大いに参考になり、また西多摩の充実した在宅難病診療の実態を外国人に見てもらえたと自負出来る有意義な検討会で終始した。

この事例検討会は、東京都から委託をうけ医師会が実施している難病在宅訪問診療検討委員会の事業の充実を計り、在宅療養者の保健福祉を向上させるために多摩川保健所の保健福祉サービス調整会議とし、関係者の連絡会として発足したものである。そして多摩川保健所担当者の優れた組織力によって、在宅サービスを担う保健医療福祉等の関係者の連携が強化され、在宅サービスが円滑かつ効率的に推進されるように患者及び家族への支援内容や具体的な方法を検討し、ケースカンファレンスとして月一回定期的に開催している。その結果、訪問看護ステーションやホームヘルパー、訪問看護婦等の支援者をスムースに導入できることや家族への対応が一本化されたこと等在宅療養支援の充実を推進している会である。

会の協議に基づくケースの現在のスケジュールは

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
梅園毎週	梅園毎週	西村医院 市ヘルパー 毎週	梅園隔週 市保健婦隔週	保健所看護婦毎週 保健所保健婦隔週 市ヘルパー隔週	社協入浴 サービス	知人 保健婦

- * 梅園=梅園訪問看護ステーション 社協=福生市社会福祉協議会
- 24時間連絡体制→西村医院 後方病院→公立阿伎留病院
- 関連保健福祉サービス→難病患者療養支援事業 社協移送サービス
- 在宅難病患者医療器具貸与（訪問看護を伴う）
- 福生市全身性障害者介護人派遣サービス運用基準



当日の出席者は 多摩川保健所：小宮山、岡崎保健婦、山本看護婦
 福生市健康管理課：高山、永井保健婦、小川ヘルパー
 梅園訪問看護ステーション：下田看護婦
 福生市社協：柳係長
 西村医院：浜渕看護婦、西村。

来る人・来ない人

(青梅市健康センター 第10報)

青梅市健康センター嘱託 石井好明

1. ドックに来る人が減った。

(1) 4月、平成9年度が終り、例年の如く、ドック集計のコンピューターを動かし始めた。(係の人に動かしていただく。)間もなく、下記の状況が明らかになった。

(表1) Aコース青梅市民受診者数

年 度	男 性	女 性	計
平成6年度	915人(100)	731(100)	1,646(100)
7	889 (97)	696 (95)	1,585 (96)
8	806 (88)	660 (90)	1,466 (89)
9	803 (88)	556 (76)	1,359 (83)

註：()内は平成6年度を100とした指數

(2) Aコース青梅市民受診者数は、昭和61年度の1,310人に始まり、次第に増加したが、(表1)の如く、平成6年度の1,646人をピークとして毎年減少し、8年度は男女ともピーク時の9割となり、9年度は男性は9割に留まったが、女性は8割を割ってスタート時の646人を下廻った。

検査項目を減らして受診料をAコースの4割に抑えたBコースは、全体の11~15%を占めているが、ピークはやはり平成6年度であり、9年度もピーク時の9割で、男性の減少の方が目立つ。市外受診者を含むA・B両コースの合計の変動状況は、Aコース青梅市民受診者とほとんど同じである。

(3) 職業別に集計すると、昭和61年度に28%を占めていた主婦は、平成6年度26%・7年度25%・8年度27%であったが、9年度に21%に急減している。他の職種には、ほとんど変動がない。

(表2) 年令別受診率(青梅市人口に対する)

年 令	30才~	40才~	50才~	60才~	70才~	80才~	計
男 性	平成6年度	1.4%	2.6	2.7	3.5	2.1	0.3 2.3
	7	1.2	2.4	2.8	3.2	2.0	0.5 2.2
	8	1.1	1.9	2.5	3.0	1.8	0.6 2.2
	9	0.9	1.8	2.5	3.0	2.1	0.7 2.0
女 性	平成6年度	1.2	2.2	2.8	2.3	0.7	0.2 1.9
	7	1.2	1.8	2.9	2.2	0.7	0.04 1.7
	8	1.1	1.7	2.5	2.3	0.6	0.04 1.7
	9	0.9	1.3	2.1	1.9	0.6	0.3 1.6

(4) 年令別に受診率を集計すると（表2）の如く、男性は8年度から30～40才代の減少（ピーク時の8割以下）が目立つが、50才以上はそれほど減っていない。女性は9年度になって30～50才代の減少が目立ち、60才以上はそれほど減っていない。

(5) 減少の目立つ主婦を、更に年令別に集計すると（表3）の如く、やはり9年度に、30～50才代の主婦が減少したことが確認された。

（表3）年令別主婦受診者数

年 令	30才～	40才～	50才～	60才～	70才～	80才～	計
平成6年度	60人(100)	114(100)	142(100)	96(100)	16(100)	2	430(100)
7	50 (83)	89 (78)	144(101)	99(103)	12 (75)	0	394 (92)
8	45 (75)	95 (83)	132 (93)	104(108)	12 (75)	1	389 (90)
9	36 (60)	64 (56)	81 (57)	87 (91)	16(100)	1	285 (66)

註：（ ）内は平成6年度を100とした指數

(6) 受診の動機の中で、「健康であるが健康診断も必要と思うから」という積極的な人の割合は、昭和61年度の40%に始まり、平成1年度以来57～58%を保っている。「健康であるが人にすすめられて」というやや消極的な人は、昭和61年度以来8・7・6%と減って平成1年度以来4～6%、9年度は3%と、減少傾向にある。受診した人で見る限り、健診やドックの意義を認める人が減る傾向はないようである。

(7) では、一般の人の意識はどうか、と基本健診と胃がん検診受診者数を調べていただくと、（表4）の如く、胃がん検診はやや伸びなやみであるが減少傾向はなく、基本健診の増加傾向は明らかである。

（表4）青梅市民受診者数

	基 本 健 診			胃 が ん 検 診			計
	男	女	計	男	女		
平成6年度	1,157人(100)	3,395(100)	4,552(100)	455(100)	1,149(100)	1,604(100)	
7	1,412 (122)	3,868(113)	5,280(116)	506(111)	1,191(104)	1,697(106)	
8	1,653 (142)	4,498(132)	6,151(135)	505(110)	1,151(100)	1,656(103)	
9	1,941 (167)	5,224(153)	7,165(157)	507(114)	1,164(101)	1,671(104)	

註：（ ）内は平成6年度を100とした指數

(8) まとめ：ドック受診者の減少は30～40才代男性と、30～50才代女性、特に主婦の減少が主因である。一方、受診者の健診やドックに関する意識の低下は見られず、「無料」の基本健診受診者は増加している。となると、ドック受診者減少の原因是、経済問題であり、ドックは「有料」であるということである。経済不況でデパートの売上げも減っているというが、収入が少ないのであろう若年層が家計の苦しくなった専業主婦が、まず自らの保健費を削った結果なのであろうか。

検診に対する一般的評価が低下したためでないと解釈し得ることがわかり、ホッとする同時に、有料であるだけのことはあるといわれるよう、ドックの内容を充実させなければ、と思う。

2. 検査成績を聞きに来る人も減った。

Aコースでは、受診者と面接して、以前の成績があればそれと比較しながら説明し、指導するのを建前としている。一方的な成績表郵送では、項目別の説明書を同封しても、問題のポイントやニュアンスをわかっていただくには不充分であり、受診者の反応もわからない。

ドック日誌で小生が診察し説明した人を集計したところ、(表5)の如く、結果を聞きに来人が年々減っている。毎年度、男性の方が少ない。男性の方が忙しいためであろうか。男性の方が会社などから費用が出る人が多く、そして会社は、結果を聞きに来る閑まではくれないことが多いためであろうか。

(表5) 検査結果を聞きに来た人の割合

年 度	男 性	女 性	合 計
平成6年度	75%	81	78
7	69	84	75
8	69	78	73
9	63	73	67

地区だより

青梅地区

学術部主催 勉強会報告

青梅市立総合病院救命救急センターについて

去る5月20日、青梅市医師会の主催で、青梅市立総合病院の星院長による救命救急センターの概要についての説明会が催された。センターは現在基礎工事の段階だが、平成12年3月完成、6月より運営される予定。現在の総合病院西隣の元看護婦寮跡地に建設され地上6階地下2階。1階には診察室、救急処置室、手術室、アンギオルーム、レントゲン施設、および整形外科と小児科の診察室が入る。またDOAに対する検査室も備えられる。2階はICU、CCU用8ベットを含む38ベットと、外科、脳外科診察室。3階は透析室で58ベットと現在の29ベットから大幅増加となる。4階には主に心臓血管外科、5階には循環器内科が入り、あわせて100ベット増床される。屋上にはヘリポートを作り、重症患者の搬送、受け入れを行う。業務は2次3次救命救急を扱い、救急専門医を数人新たに雇い入れる予定だが、詳細は未定とのこと。

(片平)

伝言板

(1) 絵画部 「杏 展」開催のお知らせ

6月9日(火)～14日(日) 11時～18時(初日15時より) 於:福生駅チギヤラリー

(2) 写真部 写真展 開催のお知らせ

6月16日(火)～22日(月) 11時～18時(初日15時より)

於:羽村市コミュニティーセンター 2階ロビー

(3) 平成10年度 西多摩三師会総会

日時: 7月11日(土) PM 6:00～ 場所: 羽村市コミュニティーセンター 研修ルーム

尚、総会終了後懇親会を行います。(会費制です)

お知らせ

事務局より お 知 ら せ

平成10年7月(6月診療分)の

保険請求書類提出日

7月8日(水)

—— 正午迄です。 ——

法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を
毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽に
ご相談下さい。

- | | |
|---------|--|
| ◎ 相 談 日 | 6月は10日(水)
7月は8日(水)の予定です。 |
| ◎ 場 所 | 西多摩医師会館和室 |
| ◎ 内 容 | 医療、土地、金銭貸借、親族、相続問題等民事、
刑事に関するどのようなものでも結構です。 |
| ◎ 相 談 料 | 無 料(但し相談を超える場合は別途) |
| ◎ 申込方法 | 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
(注)先生の都合で相談日を変更することもあります。 |

表紙のことば

最近流行のイングリッシュガーデンにつきもののパンジーの花、日本でも色々な種類が手に入るようになり、春から秋にかけて庭に咲きそろう姿は疲れたからだをいやしてくれる。

小机敏昭

あとがき

つい先日まで若草に風が光っていましたが、いつの間にか夏木立ちがうっとうと茂りはじめ、青葉闇をつくっています。

薰るようなさわやかなさつき晴れとは無縁の、低迷する日本社会を反映するかのような鬱陶しい空が続いています。

この不透明さを一新する薰風が吹かぬものでしょうか。

風来り、風舞い、風紋を砂洲に残して消えて行く…………人間とは風のようなものでしょうか。

ワールドカップサッカーも愈々はじまります。失意と絶望のくり返し、日本サッカーの最初の失敗がドーハならば、最初の成功はジョホルバルでした。

フランスのスタディアムの熱狂の輪の中で、日本代表よ青の風を吹かせよ。

あのジョホルバルの伝説の夜のように、私達に再び新しい夢を見せてくれるよう期待したいものです。

本号より編集委員会も新しいメンバーでスタートしました。御指導と御鞭撻を賜わりながら、風の気配に耳をすませ、風紋を織りなして行きたいと思います。

よろしくお願い申し上げます。

神尾重則



社団法人 西多摩医師会

平成10年6月1日発行

会長 宮川栄次 〒198-0044 東京都青梅市西分3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 神尾重則

石井好明 片平潤一 清水佐和道 高水松夫

田村啓彦 橋口昭夫 横田卓史

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

健康の輝きをひろげる。



株式会社 ビー・エム・エル

BML

本社：〒166 東京都杉並区高円寺南1-34-5 TEL.03-3216-0111(大代表)

研究所：〒350埼玉県川越市西の郷1361-1 TEL.0492-32-0111(大)

最新のテクノロジーが計測します
そして、人の眼と心が記録します



臨床検査のパイオニア

保健科学研究所

本 社 〒240 横浜市保土ヶ谷区神戸町106 TEL.045-333-1661(大代表)

仙 台 社 〒963 仙台市宮城野区廟町1-3-5 TEL.022-236-9345(大代表)